

地域医療の現場から



高齢者が楽しく安心して

暮らせるまちづくり

地域、行政、福祉の連携のパイプ役として

国保天草市立新和病院 看護総師長 脇坂多喜子

病院の概要

- 設立年月：昭和41年7月
- 許可病床数：40床
- 入院基本料：25対1
- 職員数：71人（医師4人、
看護師28人）



福祉生活ゾーン「ひだまりの里」の中にある新和病院。敷地内には各福祉厚生施設が集積している

はじめに

天草市の新和地区（旧新和町）は天草下島の東側に位置し、海と山に囲まれた静かなまちで、キャンプ場のある竜洞山からの景色は風光明媚で自然の豊かさを感じることができます。また、人口は3,480人で高齢化率が37.9%と高く、少子高齢化の波が身近に感じられます。

この小さなまちの中に、唯一の医療施設として福祉生活ゾーン内の中心にあるのが国民健康保険天草市立新和病院で、病床数は40床（療養22床、介護18床）で診療7科を標榜しています。福祉生活ゾーンには、特別養護老人ホーム、ショートステイ、小規模多機能施設、保育所などの福祉厚生施設があり、それらの各施設とデイケア、リハビリ等の充実を図っている当院が密接に連携して地域の包括ケアに努めています。

地域の健康を守る医療施設として

地域の拠点病院として安心して治療が受けられ、信頼のサービスが提供できることを目標に掲げ、平成9年11月、当院は福祉生活ゾーン内に新築移転しました。当初は地区住民の期待に沿える医療をすることが先決でしたが、同時に通所リハビリと在宅介護支援センターを併設して、その1年後に施設健診を始めました。

地域の健康を守り維持できるように、行政と協力しながら新和病院を拠点として、この15年、無我夢中で取り組んできたように思います。

現在は、まちづくり協議会、社会福祉協議会、特別養護老人ホーム、区長会など、あらゆる場所に参加させていただきながら、情報交換、必要な情報の共有を行い、高齢者が安心して暮らせるまちづくりに向けて日々模索しております。

地域医療連携の充実を目指して

当院では通所リハビリを設置し、月曜から土曜の9時30分から15時29分まで、女性8名と作業療法士(OT)の男性1名で、ご自宅への送迎も含めてサービスを提供しています。

地域の利用者が一日楽しく過ごしていただけるように、常に笑顔を忘れず、OTの指導のもと生活リハビリ、歩行訓練、筋力アップなど一人ひとりの状態に合わせてリハビリを行っています。利用者はちぎり絵など個々の作品を作るほか、共同製作も見事なものです。

スタッフは、利用者との関係を大切に、毎日の活動は微力ながらも「地域医療を支える一員に、高齢者が安心して暮らせるまちづくりになっているかな？」と自問しながら頑張ってくれています。



通所リハビリでは、利用者の状態に合わせてリハビリを行っている。利用者に一日楽しく過ごしていただけるよう心がけている



梅雨の室内を明るく彩るちぎり絵のくまモン。利用者が共同制作した

先日のことです。利用者を迎えに行ったのですが、家には誰もいません。電話をしても誰も出ません。行方不明です。利用者は一人暮らしで認知症があり、山奥で家の周りは木とやぶで、近所も少し離れています。

前夜から帰った様子がなく、食事を取った様子もないため、スタッフでできる限り捜し、その後異変に気付かれた地域の方々と一緒に捜しました。最後の手段として警察、消防団、社会福祉協議会、行政、病院に協力を依頼し必死で捜しました。

捜しながら、心臓の鼓動が「ドクンドクン」と外まで聞こえそうで、心の中では『お願い、生きていてください』と祈っていました。

「見つかったぞ！」という近所の方の声に安堵し、そして震えました。

発見したのは地区の方で、誰も行きそうにない、道もない山奥を捜し、倒れている利用者を見つけられました。感謝、いいえ、それだけじゃない、地元の方々のつながりの強さ、何もできなかった私たち——考えさせられました。

地域には、独居、認知症を持っている方、老々世帯が他にもたくさんいらっしゃいます。高齢者の方が安心して暮らせる環境をつくるのが地域連携の意味なのか？ そのためにできること、利用者との関係だけでなく地域、行政、福祉そのパイプ役が私たちの役割でもあるのでは？

今、私たち医療現場にできること、それは、地域、行政、福祉との連携を円滑にして、利用者の立場に立ち、高齢者の方が楽しく暮らしていただけるためのサポートをさせていただくことであり、自分のことだけでなく周りの人を見られるようになったとき、地域連携が成り立つと思います。

新和地区が少しでも明るくなるように、そして高齢者の方が楽しく安心して暮らせるまちづくりを目指して、これからも頑張っていきます。